

「地図太郎 PLUS Ver. 1.11 (予定)」 主なリビジョンアップ項目

1. [他形式を編集レイヤに読み込み] に「CSV ファイル (平面直角座標系)」を追加します。
 - ・ XY 座標値の項目を持つ CSV ファイルを点または線データとして読み込むことができます。
 - ・ 線データとして読み込む場合は、1つの CSV ファイルから1本の線データを作成します。
 - ・ 日本測地系のデータも読み込めます。
2. [他形式を編集レイヤに読み込み] に「CSV ファイル (経緯度座標系)」を追加します。
 - ・ 「CSV ファイル (経緯度座標付) →点データ」と「CSV ファイル (経緯度座標付) →線データ」を統合しました。
 - ・ 緯度経度の項目を持つ CSV ファイルを点または線データとして読み込むことができます。
 - ・ 線データとして読み込む場合は、1つの CSV ファイルから1本の線データを作成します。
 - ・ 日本測地系のデータも読み込めます。
 - ・ 緯度経度の値は、度単位以外に、分単位、秒単位、度分秒形式を選択できます。
 - ・ 対応している度分秒形式

形式	経度	緯度
コロン (:) 区切り	DD:MM:SS.SS	DDD:MM:SS.SS
ピリオド (.) 区切り	DD.MM.SS.SS	DDD.MM.SS.SS
半角 (° ' ") 区切り	DD° MM' SS.SS"	DDD° MM' SS.SS"
全角 (° ' ") 区切り	DD° MM' SS.SS"	DDD° MM' SS.SS"
度分秒区切り	DD 度 MM 分 SS.SS 秒	DDD 度 MM 分 SS.SS 秒
区切りなし (分、秒の整数部は2桁)	DDMMSS.SS	DDMMSS.SS

3. [他形式で編集レイヤを書き出し] に「点データ → CSV ファイル (平面直角座標付)」を追加します。
 - ・ 点データを CSV ファイル形式で保存することができます。
 - ・ 座標値は緯度経度ではなく、平面直角座標系の XY 座標値となります。
4. [背景地図を開く] に、「DM データファイル (デジタルマッピング)」を追加します。
 - ・ 日本測地系のデータもそのまま読み込めます。
5. [背景地図を開く] に、「AutoCAD DXF ファイル (平面直角座標系)」を追加します。
 - ・ 平面直角座標系で作成されたデータを対象とします。
 - ・ 日本測地系のデータもそのまま読み込めます。
 - ・ 読み込めるエンティティタイプは、LINE、POLYLINE、LWPOLYLINE、ARC、CIRCLE、TEXT です。
6. [背景地図を開く] の Shapefile (経緯度座標系、平面直角座標系) で、日本測地系のデータを読み込む機能を追加します。
 - ・ 読み込み手順を変更しました。

7. [背景地図を開く] の標高メッシュで、段彩の凡例を表示する機能を追加します。
8. [背景地図を開く] の標高メッシュで、「段彩・陰影の設定」ダイアログに機能を追加します。
 - ・ 「区画の境界線」チェックボックスを追加しました。
 - ・ 「段彩設定の読込」と「段彩設定の保存」ボタンを追加しました。
9. [センタリング] を追加します。
 - ・ 表示範囲の中心を指定の緯度経度に移動します。
10. [ワード検索 (結合 CSV)] を追加します。
 - ・ 結合している CSV データを検索します。[ワード検索] メニューから分離しました。
 - ・ 検索する項目を指定することができます。
11. スケールバーを小型化する機能を追加します。
 - ・ 「小さいフォントを使用する」にチェックを入れると、スケールバーを小型化できます。
12. [距離・面積・位置ウィンドウの表示] に変更します。
 - ・ 点データの場合、点位置の緯度経度を表示する機能を追加しました。
13. 「凡例の作成」ダイアログに「凡例の読込」と「凡例の保存」を追加します。
 - ・ 凡例をテキストファイルに保存したり、読み込むことができます。
14. その他、数機能追加します。